



（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 5 年 6 月 26 日

茨城県知事 殿

提出者

住 所 茨城県日立市白銀町一丁目1番2号

氏 名 J X金属製錬株式会社 日立工場

工場長 池田 亮

電話番号 0294-23-7135

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	J X金属製錬㈱ 日立工場														
事業場の所在地	茨城県日立市白銀町 一丁目1番2号														
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日まで														
当該事業場において現に行っている事業に関する事項															
①事業の種類	非鉄金属製造業														
②事業の規模															
③従業員数	日立工場 174名														
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<table><tr><td>・汚泥</td><td>⇒・溶融処理</td></tr><tr><td>・廃油</td><td>⇒・焼却</td></tr><tr><td>・廃酸</td><td>⇒・焼却</td></tr><tr><td>・木くず</td><td>⇒・焼却</td></tr><tr><td>・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず</td><td>⇒・溶融処理</td></tr><tr><td>・ばいじん</td><td>⇒・溶融処理</td></tr><tr><td>・廃プラスチック</td><td>⇒・焼却</td></tr></table>	・汚泥	⇒・溶融処理	・廃油	⇒・焼却	・廃酸	⇒・焼却	・木くず	⇒・焼却	・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	⇒・溶融処理	・ばいじん	⇒・溶融処理	・廃プラスチック	⇒・焼却
・汚泥	⇒・溶融処理														
・廃油	⇒・焼却														
・廃酸	⇒・焼却														
・木くず	⇒・焼却														
・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	⇒・溶融処理														
・ばいじん	⇒・溶融処理														
・廃プラスチック	⇒・焼却														



（日本工業規格 A 列 4 番）

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

① 責任者

日立工場 HMC製造部長

平出 正幸

② 産業廃棄物管理責任者

日立工場 HMC製造部 製造第1課長 倉井 大輔

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	木くず	燃え殻	ばいじん	廃プラスチック類
	排出量	1831t	4.7t	0.03t	27t	48t	0.7t	0.1t	142t
	（これまでに実施した取組） ・前年同様に、排水処理工程から発生する汚泥の排出量削減を目的に、中和工程での適正なpH管理を継続。								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	木くず	燃え殻	ばいじん	廃プラスチック類
	排出量	0t	5.0t	0.03t	0.6t	48t	0t	0.1t	140t
	（今後実施する予定の取組） これまで発生していた汚泥およびガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの一部は含有有価金属評価により産業廃棄物として取り扱わなくなるので、自社の有価金属回収工程にて処理予定。よって産業廃棄物の排出量が減少。								

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項									
①現状	【前年度（ 年度）実績】								
	産業廃棄物の種類								
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量				t				t
	(これまでに実施した取組)								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類								
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量				t				t
	(今後実施する予定の取組)								
産業廃棄物の処理の委託に関する事項									
① 現状	【前年度（ 令和 4年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	木くず	燃え殻	ばいじん	廃プラスチック類
	全 処 理 委 託 量	1831t	4.7t	0.03t	27t	48t	0.7t	0.1t	142t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	1831t	4.7t	0.03t	27t	48t	0.7t	0.1t	142t
	再生利用業者への処 理 委 託 量								
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量								
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量								
	(これまでに実施した取組) ・前年同様に、排水処理工程から発生する汚泥の排出量削減を目的に、中和工程での適正な pH 管理を継続。								

② 計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃酸	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	木くず	燃え殻	ばいじん	廃プラスチック類
	全処理委託量	0t	5.0t	0.03t	0.6 t	48 t	0t	0.1t	140t
	優良認定処理業者への処理委託量	0t	5.0t	0.03t	0.6 t	48 t	0t	0.1t	140t
	再生利用業者への処理委託量								
	認定熱回収業者への処理委託量								
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量								
	(今後実施する予定の取組) ・適正処理を継続。 ・これまで発生していた汚泥およびガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの一部は含有有価金属評価により産業廃棄物として取り扱わなくなるので、自社の有価金属回収工程にて処理予定。よって産業廃棄物の排出量が減少。								
※事務処理欄									

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。